

医学部受験は登山と同じ。
万全の態勢で臨むべし



勉強の仕方

- | 受かる子 | 受からない子 |
|--------------------------------------|--|
| 毎日復習を
しっかりする。
基礎を完璧にする
までやる | 一度正解した
問題は安心し、
難しい問題ばかり
やりたがる |

「基礎は簡単だと軽視して、難しい問題をやりたがる人がいます。しかし、基礎をきちんと理解することは、本当はとても難しいこと。基礎が固まっていないと初見に映るような問題が出された時に、思考が働かなくなります。実はここが合否の分かれ目になることがあります。入試では問題集とまったく同じ問題が出ることはほぼありませんから。各教科の原理・原則を大事にしながら、勉強を進めていくことが肝要です」(村田さん)

「高層ビルは、不安定な土台の上に建てたら、いつか必ず崩れます。受験も同じ。何より基礎固めが重要です。基礎力は繰り返し反復することで向上するものなので、毎日の復習を確実に。問題の解きっぱなしは論外です。正解したかどうかではなく、どんな形で出題されても応用できるように、原理原則を理解するまで消化しておくことが大切なのです。余裕のある夏頃に、ワンランク上の問題に挑戦するのもおすすめです。理解不足な箇所がよくわかりますよ」(長原さん)

科目勉強の配分

- | 受かる子 | 受からない子 |
|-----------------------|-----------------------|
| 苦手科目に
こそ
時間をかける | 得意科目の
比重が
大きすぎる |

「医学部受験で一番きついの、全体の要求点が高いゆえに、得意科目から逃げられないところです。受からない子は得意科目をより伸ばすために時間をかけがちですが、それよりは、苦手な科目の最低ラインをどこまで上げられるかのほうが大切です。調子のいいときに取った最高得点を基準にして安心してはいけません。大切なのは、調子の悪かったときの得点から何を学ぶかです。いかに失点を防ぐかを考えるようにしてください。そこで粘り強く踏ん張れる子が、受かりやすいといえます」(長原さん)

「医学部入試は、全科目まんべんなく得点を積み上げていく必要があります。そこが大変なところです。総合点での勝負になるので、『穴』をどれだけなくすかがカギとなります。得意科目はより確実に、高みを目指して仕上げていながらも、苦手科目から逃げず、しっかりと向き合っていくことが大切です。そして、やさしい標準問題はミスがないようにし、絶対に落とさないようにすること。1点を積み上げていく努力を継続し、苦手を克服していくことが勝負の分かれ目となります」(村田さん)

ノートの取り方

- | 受かる子 | 受からない子 |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| できなかった
箇所や弱点が
わかるように
記録を残す | きれいだが、
板書を写しただけ
のノートに
なっている |

「受からない子のノートは、板書をそのまま写しているから実はきれいなことが多いです。ノートを取ることで自分が目的になっているからでしょう。一方、受かる子は、復習の道具になるように、工夫をしてノートをまとめています。1週間後、1カ月後に見直した時に、自分がつまずいた箇所や授業のポイントなどを振り返ることができるような、自分だけのオリジナルテキストになっているのです。どんなふうに書けば、後で見直した時に使えるノートになるのか、自分なりに工夫してみてください」(村田さん)

「勉強ができる人のノートは、雑なことがよくあります。授業内容や解答を一度自分のなかで咀嚼し、整理したものをアウトプットしているからです。自分だけがわかればいいのです。要領の悪い子は、板書しただけのノートになっています。受けただけ、解いただけはダメ。一度自分の頭を使って整理し、理解するという作業が何より大切です。自分の弱点を把握し、問題の原理原則まで理解しようと努めることで、同じミスを何度も繰り返さないようになれるのです」(長原さん)

医学部受験のプロが解説

医学部に、受かる子、受からない子の違い

学習計画

- | 受かる子 | 受からない子 |
|--|---|
| 合格に必要な
レベルから
逆算して計画を立て、
やり遂げる | 自分を知らずに
無謀な計画を立て、
途中で何度も
見直してる |

「医学部受験を登山に例えると、知識・技術不足や軽装備で何となく挑んだら挫折したり、道に迷ったりします。受かる子は、合格までの道のりに何が必要で、今の自分に足りないスキルは何なのかを明確にし、それをどう身につけるか、合格から逆算し、綿密な準備と計画を立て、それを確実に遂行する強い意志をもっています」(村田さん)

「目標に対して自分に何が足りないのかを分析でき、不屈の精神で向かえる子が受かりやすいのは確かです。もうひとつ重要なのは、学習全体の流れです。7月までに基礎を固めて、応用、過去問演習へと続くのがセオリーです。長期だけでなく、1日、1週間の目標も立て、着実にこなしましょう。計画通り進まなかったからと、何度も計画を見直すような子はやはり受かりにくいですね」(長原さん)

取り組み姿勢や行動パターン、勉強法を見直して、次こそは医学部に「受かる子」になろう!

取材・文/石村紀子 イラスト/高柳浩太郎

／ 私たちが解説します ／



医学部専門予備校
クエスト 代表
長原正和さん



医学部受験
富士学院 学院長
村田慎一さん

長年、医学部受験に携わり、その豊富な経験から受験生を指導している。塾生一人ひとりに対して現状分析やアドバイスをおこなう面談には定評がある。

毎年多数の医学部合格者を輩出する富士学院で学院長を務める。全国の高校や媒体から多くの依頼を受け、医学部受験に関する講演をおこない、高評を得ている。

勉強への向き合い方

- | 受かる子 | 受からない子 |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 問題意識や
好奇心が強く
授業では
常に真剣勝負 | 嫌だなど
思いながら
受け身で
勉強している |

「受かる子は、勉強時間以外の時間も頭の片隅で考え続けている傾向があります。ある意味、楽しみながら。問題意識や好奇心が強いのです。また、隙間時間の活用がうまいのも特徴です。ほんの10分を無駄にしないから、大量の課題が回るのです。受からない子は、苦しいと思いつつやっているので心理的にきつく、学習効率が悪い子が多いです」(長原さん)

「授業の受け方にも差があります。受かる子は毎回の授業を能動的に、授業中にどこまで理解できるかと真剣勝負しています。受からない子は、受け身で、あとで自分でやれば何とかかなるだろうと、何となく授業を受けています。授業で多くを理解しようとしている人と、何となく受けている人の差は、時間とともに大きく差がついていきます」(村田さん)

問題集・参考書の選び方

- | 受かる子 | 受からない子 |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 自分の学力に
合ったものを
厳選して、
1冊やりきる | 評判のよいもの
や難しいもの、
複数冊に
手を出す |

「受からない子は、自分の学習進度に合っていない問題集や参考書を使っていることが多いです。いろいろな情報で評判のよいものがあると、1冊終える前に複数のものに手を出すこともよくあります。むやみに手を広げるより、自分の学力に合うものを1冊やりきるほうが情報も一元化しやすく、学習効果は高いです」(村田さん)

「今はネット社会で、この参考書がいいとか、この問題集が僕は受かった、というような情報が氾濫しています。評判がよいものを使いたくなる気持ちになりますが、振り回されるのは危険です。大切なのは、自分の実力を客観的に分析し、レベルの合うものを選ぶこと。そして自分の弱点を克服するまで、何度も繰り返し反復することです」(長原さん)

医学部合格に役立つ知識と合格のポイント

富士学院理事長 坂本友寛



医学部人気は手堅いものの合格しやすい状況が続く

少子化の影響を受けて、大学入試の志願者数は減り続けています。2023年度の大学入学共通テストの志願者数は、昨年度の53万367名から1万8000名近く減少し51万2581名になりました。

一方で、医学部志願者の状況を見ると、国立医学部に関しては、昨年度2万2342名、今年度2万3510名ですから1168名増加しています。より実数に近い前期試験の志願者数で見ても、87

3名と微増していることがわかります。

私立医学部についても、昨年度9万308名、今年度9万4631名と4323名増加しています。ただし、この増加分の大半は、共通テスト利用選抜入試の志願者で、一般選抜の志願者数の伸びは1258名と、志願者増加のうちの3割にとどまっています。

大学志願者数が減少するなかで微増傾向が見られる医学部には、やはり根強い人気があることがわかります。しかし特に私立では複数受験が増えているのが現状であり、受験者の実数自体は確

実に減っており、以前と比べ合格しやすくなっているのは間違いありません。実際、全国に10校舎ある私共富士学院でも、偏差値が50そこそこの生徒が多く医学部に合格していますし、偏差値60以下まで広げれば相当数の合格者がいます。これまでの感覚でいえば合格できなかった層までもが、現実に合格できる状況が生まれています。

合格判定の厳正化で多浪生の合格も増加

医学部入試をめぐる昨今の大きな変化として、もう一つ、医学部入試において女子受験生や多浪生が合格しやすくなったことが挙げられます。文部科学省の指導によって、女子受験生や多浪生に不利な採点ができなくなったことが最大の理由ですが、大学としても受験者の実数が減少するなかで優秀な受験生を確保するために、成績を厳正に評価することが大切だと判断するようになってきたのだと思います。

富士学院の合格者を例にとれば、これまで5浪以上の多浪生が合格する大学はある程度限られていましたが、近年はどの大学にも満遍なく合格する傾向が見られます。昨年度の17浪生、

今年度の14浪生の合格は極端な例としても、多浪生だからと合格を諦める必要はなくなってきたのは確かだと思っています。

また、近年では特に大学入試において浪人を避ける傾向が顕著になっており、医学部入試においても浪人せず他学部に進学する生徒が増え、そのため浪人数はかなり減っています。

その背景には、ロシアによるウクライナ侵攻や、中国や北朝鮮も含めた安全保障問題や物価上昇などの社会不安も要因としてあるのだろうと思います。浪人生は、学校にも大学にも所属していない、ある意味不安定な立場ですので、どこかに身を置きたいと思う気持ちはよくわかります。

しかしこうした状況がずっと続くわけではありませんし、目先ではなく10年後や20年後の人生を見据えた時に、医師になった人生と、それとは違う人生では将来が大きく変わってきます。特に本当に医師になりたいと思うのであれば、浪人したからといってそれだけで医学部を諦めるのは非常にもったいないと思います。その理由を二つの観点から説明します。

医学部入試はきちんと勉強すれば合格できる

一つは、医学部合格は世の中の多くの人が考えているより難しくはないということです。受験偏差値でいえば、ある程度の学力レベルは必要ですが、大学によって合格偏差値はかなり差があるため、大学を選ばず大学との相性を含めて「医学部合格」というくりでいえば、それほど高い学力は必要ないといえるのです。

もちろん、入試は受験科目の総合点で合否が決まるわけですから、わからない部分があるままにしていると、それが足を引っ張って合格点に達しないということはよくあります。しかし、わからないところをそのままにせず、質問して理解できるまで頑張るといった日常的な努力を続けていけば、苦手意識も少しずつ払拭できていくでしょうし、点数も上がってくるはずなんです。こうした当たり前の努力を続けていけば、医学部合格はそれほど難しい目標ではないのです。

仮に現役合格ができなくても、正しい最新の入試情報があり、その情報が生徒に生かせる環境があって、質問もしつかりできる環境に身を置いて挑戦すれば医学部に合格できるチャンスがあるにも関わらず、現役合格ができなかったからといって他学部に進学するのは本当にもったいないと思います。

医学部合格には必要以上の高い偏差値よりも、大学ごとの最新の入試情報を含めて質問がしつかりできる学習環境が一番大切だということを、改めて強調しておきたいと思います。

私立医学部であっても学費を実質ゼロにできる道も

医学部進学を諦めるもう一つの大きな要因は、私立医学部の高い学費があると思います。ただ、最近の私立医学部は、都道府県と連携した修学資金制度や特待生制度を設けており、国立と遜色ない、あるいは国立よりも安く通えるケースも出てきました。

たとえば、東北医科薬科大学医学部の一般選抜試験修学資金枠A方式では、6年間で3000万円が貸与されます。学費総額が3400万円ですから、6年間の実質学費は400万円と国立と変わりません。また貸与額2600万の修学資金枠B方式では、実質学費は6年間で800万円以内、年額150万円以下ですから、言われるほど高額なわけではありません。

もちろん、宮城県あるいは東北5県で一定期間医師として務める義務はありますが、それをクリアすれば返還義務は免除されます。しかもA方式は35名、B方式は20名ですから、募集定員100名の半数以上がこうした修学資金制度を受けられるのです。

また、杏林大学医学部の場合、東京都地域枠選抜(10名)に合格すると、6年間の学費が全額免除される上に生活費として6年間で720万円が支給されますし、新潟県地域枠(2名)でも6年間の学費が全額免除になります。

こうした枠には国立志願者を含め多くの志願者が集まりますが、私立医学部の場合は国立と違い受験科目を4科目に絞ることができ、それぞれ大学の大学毎に出題傾向に特色があるため、相性も含めてきちんと対策を取れば合格の可能性も増えてくるのです。ここでは紙面の関係でその他の情報は載せていませんが、たくさんの方で学費が抑えられる様々な制度を設けていますので、ぜひ調べてみてください。

出願先の選定と対策が医学部合格のポイント

ここまでは医学部受験をめぐる状況と、合格のチャンスが広がっていることをお伝えしてきました。最後に医学部合格のポイントについて簡潔にまとめてみたいと思います。

医学部入試はどこに出願するのか、そしてその対策をどうとるのが合格への一番大きな鍵となります。仮に高い学力や偏差値があったとしても、相性などを含め出願先を間違えると不合格になるケースもよくあります。さらに医学部入試は入学試験と同時に就職試験

の側面もありますから、医師になる自覚や覚悟も求められます。

出願先を決めるためには、その大学の出題傾向の詳細な分析と、受験生の科目ごとの特性や学力との相性を見る必要があります。また、医師になる自覚や覚悟は面接などで問われますが、大学ごとで面接のやり方や評価方式も異なるので、その情報も必要となります。

こうしたことを総合すれば、医学部に合格するためには、ただやみくもに勉強するだけではなく、合格に必要な多くの様々な情報を取得し、その情報をしっかりと生かして学習できる環境が必要だということが言えます。その上で、生徒一人ひとりと向き合い最適な出願先を提示し、その出願先に必要な学習対策ができれば、逆転合格も決して夢ではありません。ぜひ、そういう環境がある塾や予備校に身を置き、医学部合格への一歩を踏み出してください。

医学部受験 富士学院	検索
全て直営校で運営	
東京御茶ノ水校	0120-01-9179
東京十条校	0120-02-9179
横浜校	0120-04-9179
名古屋校	0120-9816-33
京都校	0120-05-9179
大阪校	0120-06-9179
岡山校	0120-9179-00
広島校	0120-09-9179
福岡校	0120-5251-22
鹿児島校	0120-66-9179

毎年実数で2人に1人以上の医学部医学科合格者を輩出

富士学院



DATA

【合格実績】 国公立大66人、私立大484人、省庁大専校6人

【対象】 中学生、高校生、高卒生 【寮】 寮・専用食堂あり

【学費例】 (一例) 入学金22万円 国公立177万1550円、
私立348万2600円、完全個別指導コースは別途確認、
個人指導70分1万5400円 特待生制度あり

【校舎】 東京、横浜、名古屋、京都、大阪、岡山、広島、福岡、鹿児島に10校舎。
[東京御茶ノ水校] 東京都千代田区神田淡路町2-23
菅山ビル2F-3F TEL.0120-01-9179

合格は勿論、その先の良医を見据えた指導も実践

現在、東京や大阪を含め全国に10校舎の直営校を構え、校舎内や近くに専用食堂と寮を完備。高卒生は国公立医学部コースのほか、無選抜の私立医学部コース、国公立、私立併願コースを設置。科目別学力別の少人数制クラス授業と個人指導を中心に、生徒の現状に合わせてクラス授業や個人指導の併用ができる。その他、自習室を完備した夜学習システムも充実しており、生徒に応じた様々な学習の環境も整えられている。中高生は個人指導を中心に、自習室も完備。空いている講師には質問もできる。また希望者にはクラス授

業個人指導共にオンライン授業も可能。
毎年高い合格実績を誇り、今年度も2人に1人以上が医学部医学科に進学。国公立医学部に強いのも特徴のつだ。また、高校や大学からの依頼で行う校内医学部入試セミナー、大学のオープンキャンパスなどで行う医学部入試対策講座や推薦合格者に行う入学前準備教育は、毎年高い評価を得ている。その他、予備校ではめずらしい医師、医大生のOB会があり、現在、医師411名を含む1371名が登録。合格後も、良医を目指す様々なサポートが続く。

業個人指導共にオンライン授業も可能。
毎年高い合格実績を誇り、今年度も2人に1人以上が医学部医学科に進学。国公立医学部に強いのも特徴のつだ。また、高校や大学からの依頼で行う校内医学部入試セミナー、大学のオープンキャンパスなどで行う医学部入試対策講座や推薦合格者に行う入学前準備教育は、毎年高い評価を得ている。その他、予備校ではめずらしい医師、医大生のOB会があり、現在、医師411名を含む1371名が登録。合格後も、良医を目指す様々なサポートが続く。